

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ4、5月-

～早春の自然観察と巣箱づくりに挑戦～

今年度最初のイベントは4月23日(日)の「巣箱づくり」でした。サクラの開花が待ちどおしい時期です。当日は快晴で、多くの参加者でにぎわいました。仙台や石巻から参加された方もおりました。園内の自然観察では、早春の野草が見頃をむかえ、小鳥の声もするなかでの巣箱づくりとなりました。

子供たちのみならず、お父さんやお母さん、お祖父さんまでが熱心に製作にあたりました。完成した巣箱は持ち帰って、思い思いの場所に取り付けたことと思います。



＜完成品＞

～新緑の一桧山を歩きましょう～

5月7日(日)、この時期らしい五月晴れのもと、ようやく開通した県道を通して「国見峠」よりスタートしました。

一桧山の新緑は絶好調で、さまざまな緑の色づきを見ることができました。

時間に余裕をもたせ、本格的な山歩きをめざしたイベントでした。秋には「紅葉の一桧山を歩きましょう」というイベントも企画しております。

この新緑が紅葉に様変わりする一桧山も魅力たっぷりです。



＜まずは準備体操!＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)の
大友さんのコーナーです

“巣立ちの季節”

“カワガラスが巣立ちました” <①>

- ①競ってエサをもらいます
- ②外の世界に興味深々
- ③フンをしました
- ④巣立ちです
- ⑤エサをねだるひな(大友)



生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

“タマバエの知恵”

「こもれびの道」の中間にスズタケが生えている。先日の観察会でそのスズタケが花を咲かせているのを見た。竹や笹の開花は数十年に一度で、咲き終わると枯れるといわれる。途中で笹の葉の奇形を見つけた。ササウオタマバエの虫こぶの「笹魚」で魚にそっくりである。

笹魚はひとりてに谷川に落ちてイワナになるという伝説もあるから面白い。中にいるタマバエは数年に分けて羽化する。一斉に羽化した年に竹が全滅すると自らも滅ぶから小分けして羽化する。子孫を残すためのタマバエの術、竹の特性を知るタマバエの知恵はすごい!

(は)



＜笹魚①＞



＜笹魚②＞

まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

～「藍色」の意味・・・「アイ」(タデ科)～

藍染めで使う「アイ」はタデ科の一年草です。秋に開花しますが、花や姿形は、「アカマンマ」でお馴染みのイヌタデとよく似ています。原産地はインドで、中国を経由して伝わったとされます。「アイ」は青色の染料として用いられた最古の染料の一つです。

さて、奈良・平安の時代から官位(身分)により着用する衣服の色が定められていました。上は紫色や赤色(緋)から緑色・青色(縹)、黄色などの色で、一般人は「椽(つるばみ)」というドングリで染めた色と定められていました。この中で、青色の衣服の染料として「アイ」が使われました。また色の濃淡での差もあり、藍染めでもっとも深い色(深縹)と浅く染めた色(浅縹)での区別もありました。現代では、気軽に藍染めを楽しむことができますが、古代の人々にとって衣服の色は、地位や身分を示すものとして重い意味があり、衣服の色にまつわる話や歌も数多く残されています。こんなことを思いながら、藍染めを楽しまれたらいかがでしょうか。(千葉)



＜秋に咲く「アイ」＞

科学館情報

ここは尾瀬か??

5月中旬、敷地の奥にある滝(夫婦滝)に通じる木道が完成しました。昨年、この滝と早春の野草を紹介する写真により、チョット話題になったスポットです。設計・製作は森林科学館のスタッフでおこない、少しでも歩きやすい環境を整えました。木道の左手には「ミスバショウ」が自生していて、ミニ尾瀬を楽しめるような雰囲気です。来館の折にぜひ足を延ばして頂きたいと思います。

